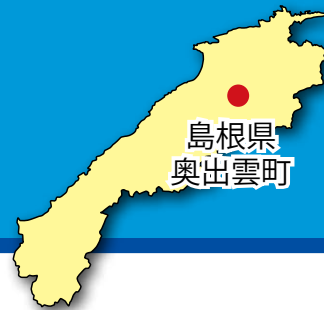


鉄を生み出した丘陵地は日本棚田百選

おおばら 大原新田



島根県
奥出雲町

近世、中国山地はわが国で一番輝いていた地域であったとも言われますが、それはまさしくわが国の鉄生産量の7～8割を生産していたからでしょう。なかでも奥出雲はたたら地といえます。

鉄師として繁栄を極めた糸原家は、寛永10年（1633）に大原鉄山においてたたらを創業したのが始まりだと言われています。その後、天明8年（1788）に大原から雨川の鉄穴たたらに移ります。このため文久2年（1862）、糸原家により大原たたら跡地を棚田にする造成が始められ、大原新田が形成されていきました。

この棚田は一区画当たりの面積が平均して20アール近くあり、整然とした特徴がみられます。しかし、この田畑は近年に圃場整備されたわけではなく、造成当初の古い姿を残したままであると伝えられており、近世の土木技術の高さを知ることができます。

一方、田畑の中に小山が見えるのは多くが鉄穴残丘といわれるものです。一般的には固い巨石などが残ったものといわれますが、奥出雲ではそれだけでなく鎮守の森や墓地などの神聖な場所であり、それを守るために残した地所なのです。また、鉄穴流しには必要不可欠だった水路ですが、田畑として耕作するためにも必要な灌漑用水として現在も利用されています。

ここ奥出雲には鉄穴流しによって生まれた田畑を維持し続けたことで、農耕に関する景観を創り出し、人々の生活の基盤となっています。こうして、平成26年（2018）3月に中国地方で初めてとなる国の重要文化的景観に選定されました。

たたら製鉄は国の選定保存技術に選定されており、今も奥出雲の日刀保たたらでは技術を継承するため、またわが国独自の美術品である日本刀の材料となる玉鋼を生み出すために、村下を中心にたたら操業が行われています。こうした技術は鉄穴流しによって生まれた景観の維持と共に、次代へつないでいってほしいものです。

■位置図



鉄穴流し用のため池が農業用の灌漑用溜池に山一つ隔てた金川水系から導く。地元では「ツツミ」と呼ぶ。



鉄穴流しの水路が農業用のかんがい用水に転用



墓地などの信仰の対象が存在したために残された残丘



大原新田
「奥出雲たたら製鉄及び棚田の文化的景観」として平成26年に国の重要文化的景観に選定